

## 外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/15

### 米・欧の不安はやや後退

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	↑	株価下げ止まりなら反発へ 予想レンジ: 108.50 ~ 112.50円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	↑	リスク回避ムード後退 予想レンジ: 1.4100 ~ 1.4450 ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	↑	主要国株価に連れる展開 予想レンジ: 122.50 ~ 129.00 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	↑	各国経済イベントと株価に要注意 予想レンジ: 1.6050 ~ 1.6470 ドル	8-9
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 8/8~12までの主な推移



<b>8/8</b> Monday	前週末5日のNY市場終了後に、格付け会社S&Pが米国の格付けを最上級の「AAA」から「A A+」に引き下げた事を受けて取引開始からドル安・ユーロ高が進むと、対円でもユーロ高が進み、ユーロ/円は112.34円の高値を付けた。しかし、その後は米国の格下げを嫌気してアジア株が軒並み下落した事を背景にリスク回避の動きが強まり、ユーロ/円は売り優勢となった。その後の欧米市場でも株安の流れが続き、NYダウ平均株価が大幅に下落すると、ユーロ/円は109.72円まで下落した。(①)
<b>8/9</b> Tuesday	米連邦公開市場委員会(FOMC)が「異例の低金利を少なくとも2013年まで維持」「追加的な緩和策を適切に実施する用意がある」などとする声明を発表すると、追加緩和への期待からNYダウ平均株価が反発。引けにかけて400ドル超の上昇となると、リスク回避ムードが後退し、ユーロ/円は110.63円まで大幅に上昇した。(②)
<b>8/10</b> Wednesday	フランス格下げの噂や、大手仏銀が公的支援を要請するとの噂から金融株主導で、欧州株が大きく下落するとユーロ/円は売り優勢となった。その後、大手格付け会社3社はいずれもフランスの格付けが「安定的」である事を確認したが市場の動揺は収まらず、NYダウ平均株価が寄り付きから300ドルを超える下落となり、その後も下げ幅を拡大すると、ユーロ/円は108.30円まで下落した。(③)
<b>8/11</b> Thursday	欧州株が銀行株主導で下落に転じると、ユーロ売りが優勢となった。さらに、米新規失業保険申請件数の好結果を受けてユーロ売り・ドル買いが強まると、これにつれてユーロ/円も下落し108.00円の安値を付けた。(④)しかし、その後は、米新規失業保険申請件数の結果を好感してNYダウ平均株価が上昇した事や、スイス中銀(SNB)がスイスフラン高対策としてスイスフランとユーロの一時的なペッグ(連動)制の導入を検討しているとの憶測などからユーロ高・スイスフラン安が進行した事につれてユーロ/円も109.71円まで反発した。
<b>8/12</b> Friday	安く始まった欧州株が持ち直した事や、ECBが流通市場でイタリア・スペイン国債を買い入れたとの観測を背景にユーロ買いが優勢となった。さらにその後発表された米7月小売上高(除自動車)が前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回った事を好感して時間外のNYダウ先物が上げ幅を拡大すると、ユーロ/円は109.59円まで上昇した。(⑤)なお、イタリア内閣が2012年と13年の緊縮財政計画を承認した事もユーロの支援材料となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

## 下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題  
→欧州金融機関に対する懸念
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

## 今週の見通し

先週のユーロ/円相場は108.00～112.34円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約2.3%の下落(ユーロ安・円高)となった。NYダウ平均株価は9日には、パニック的な売りを受けて一時10600ドル台まで下落したものの、12日には一時11300ドル台まで反発しており、世界同時株安の流れは一服しつつある。新規失業保険申請件数や小売売上高などの結果から米国経済の先行きに対する懸念が和らいだ事もあるが、ユーロ圏では欧州中銀(ECB)がイタリアやスペイン国債を購入しており、これらの国債利回りが一時に比べ1%以上低下している事で、欧州債務危機が周辺国から中核国へ飛び火するとの不安が後退した事も主要国の株価の持ち直しに寄与した。こうした中で、今週は16日に行われる独仏首脳会談に注目したい。債務危機克服に向けてユーロ圏のガバナンス改善案が示されると見られており、ユーロ圏共同債の発行やユーロ圏財務省の創設など、具体的に踏み込んだ内容が発表されれば、ユーロ高材料となるだろう。ただし、独はユーロ圏共同債の発行には反対を表明するなど、どこまで踏み込んだ内容となるかは不透明だ。首脳会談後の発表が、具体性に乏しく総花的なものにとどまれば、失望からユーロ売りが強まる可能性もある。(神田)

(予想レンジ:108.50～112.50円)

## EUR/USD

## ユーロ/ドル 8/8~12までの主な推移



8/8 Monday	前週末5日のNY市場終了後に格付け会社S&Pが米国の格付けを最上級の「AAA」から「A A+」に引き下げた事を受けて、取引開始からドル安・ユーロ高が進んだ。その後欧州中銀 (ECB) が流通市場でイタリア国債を購入したとの観測が広がり、国債利回りが低下すると、同国の債務懸念が和らぎ、ユーロ/ドルは1.4401ドルの高値を付けた。(①)しかしその後、米国の格下げを嫌気してNYダウ平均株価が大幅に下落すると、リスク回避の動きが強まり、ユーロ/ドルは1.4129ドルまで下落した。
8/9 Tuesday	米連邦公開市場委員会(FOMC)が「異例の低金利を少なくとも2013年まで維持」「追加的な緩和策を適切に実施する用意がある」などとする声明を発表すると、追加緩和への期待からNYダウ平均株価が反発。引けにかけて400ドル超の上昇となると、リスク回避ムードが後退し、ユーロ/ドルは1.4372ドルまで大幅に上昇した。(②)
8/10 Wednesday	スイス中銀が「自国通貨高対策を拡充」と発表した事を受けて、ユーロ/スイスでユーロ高が進むと、ユーロ/ドルは1.4400ドルまで上昇した。しかしその後、フランス格下げの噂や、大手仏銀が公的支援を要請するとの噂を背景に金融株主導で欧州株が大きく下落すると、ユーロ/ドルは売り優勢となった。その後、大手格付け会社3社はいずれもフランスの格付けが「安定的」である事を確認したが市場の動揺は収まらず、NYダウ平均株価が寄り付きから300ドルを超える下落となり、その後も下げ幅を拡大すると、ユーロ/ドルは1.4161ドルまで下落した。(③)
8/11 Thursday	前日に破綻の噂から急落した大手仏銀株が高寄り後に値を崩すと、欧州株全体が下落に転じ、ユーロ売りが優勢となった。さらに、米新規失業保険申請件数が39.5万件と予想(40.5万件)を下回るとドルが上昇し、ユーロ/ドルは1.4102ドルの安値を付けた。(④)しかしその後、スイス中銀(SNB)が、スイスフラン高対策としてスイスフランとユーロのペッグ(連動)制を検討しているとの憶測などから、ユーロ/スイスでユーロ高が進行すると、ユーロ/ドルは反発。NYダウ平均の大幅反発もあって1.4293ドルまで上昇した。
8/12 Friday	安く始まった欧州株が持ち直した事や、ECBが流通市場でイタリア・スペイン国債を買い入れたとの観測を背景にユーロ買いが優勢となった。さらにその後発表された米7月小売上高(除自動車)が前月比+0.5%と予想(+0.3%)を上回った事を好感して時間外のNYダウ先物が上げ幅を拡大すると、ユーロ/ドルは1.4290ドルまで上昇した。(⑤)なお、イタリア内閣が2012年と13年の緊縮財政計画を承認した事もユーロの支援材料となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## EUR/USD

## 上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米連邦債務上限引き上げ問題の混迷
- ・米国の超低金利長期化観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

## 下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題  
→欧州金融機関に対する懸念
- ・米連邦債務上限引き上げ合意観測
- ・ドル金利の先高観
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

## 今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4102~1.4401ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.3%の小幅下落(ユーロ安・ドル高)となった。先週はスイス中銀(SNB)が、一時的にスイスフランとユーロをペッグ(連動)させるためにスイスフラン売り・ユーロ買い介入を行うとの憶測からユーロ/スイスでユーロ高・スイスフラン安が進み、ユーロ/ドルにも上昇圧力がかかる場面があった。歴史的な水準まで上昇していたスイスフラン高の修正が一段と進めば、ユーロ高につながりやすい。さらに、先週一時大きく下落していた主要国の株価が週末にかけて持ち直しており、この動きが今週も続くようだとユーロ/ドルの上昇材料となりそうだ。

米国経済指標の結果などから過度の景気減速懸念はやや後退しつつある。欧州債務懸念についても欧州中銀(ECB)による国債買い入れの効果などから周辺国の国債利回りは大幅に低下しており、危機拡大の懸念は一旦後退している。こうした中、米国は実質ゼロ金利政策を少なくとも今後2年間は続ける事を表明している一方で、ユーロ圏は利上げサイクル継続中というフ金融政策格差に焦点が当たれば、徐々に株高・資源高・ユーロ高・ドル安という展開に進むのではないだろうか。(神田)

(予想レンジ:1.4100~1.4450ドル)

# GBP/JPY

## ポンド/円 8/8~12の主な推移



<p><b>8/8</b> Monday</p>	<p>前週末5日のNY市場終了後に、格付け会社S&amp;Pが米国の格付けを最上級の「AAA」から「AA+」に引き下げた事を背景に、早朝からドル安・ポンド高が進行。これを受け、ポンド/円でもポンド買い優勢となり、128.83円の高値を付けた(①)。もっともその後はアジア・欧州・米国市場で株安が続き、126.48円まで値を下げた。</p>
<p><b>8/9</b> Tuesday</p>	<p>日経平均が下げる中、ポンド/円は下落。午後に入ると米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が緊急記者会見を行うとの噂が広がり、アジア株が下げ幅を圧縮するとポンド/円は一時127.00円まで上昇したが、その後は失速。さらに、17時30分に発表された英6月鉱工業生産が前月比±0.0%と予想(+0.4%)を下回ったことからポンド安の流れが加速し、米国市場に入ると一段安となった(②)。27時15分頃、米連邦公開市場委員会(FOMC)が「異例の低金利を少なくとも2013年まで維持」「追加的な緩和策を適切に実施する用意がある」などとする声明を発表すると、直後のポンド/円はドル/円とポンド/ドルでドル安が進む中で乱高下したが、米超低金利政策の長期化観測からNYダウ平均株価が上昇すると、ポンド/円も反発した。</p>
<p><b>8/10</b> Wednesday</p>	<p>早朝に126.24円まで上昇。しかし、アジア株の伸び悩みや北朝鮮による韓国領へ向けた砲撃が報じられたこと、18時30分に発表されたイングランド銀行(BOE)のインフレレポートにおいて、「2年後の消費者物価指数(CPI)は予想通りに金利が推移すると約1.8%になる」「CPIは2011年に5%に達するが、2012年、2013年に緩和する」「5月時点よりも英経済成長見通しは弱い」などと、インフレと経済成長の見通しを下方修正したことなどがポンド売り・円買い要因となり、ポンド/円は下落。さらに米国市場でフランス格下げの噂などを背景にユーロ/円が大幅に下げると、ポンド/円は連れ安となり、123.30円の安値をつけた(③)。</p>
<p><b>8/11</b> Thursday</p>	<p>アジア市場から欧州市場にかけては方向感に乏しい展開だったが、米国市場に入り、発表された米新規失業保険申請件数が39.5万件と予想(40.5万件)より良好な結果だったことを受けてNYダウ平均株価が上昇した事や、スイス中銀(SNB)がスイスフラン高対策としてスイスフランとユーロの一時的なペッグ(連動)制の導入を検討しているとの憶測などからポンド/スイスでスイスフラン安・ポンド高が大きく進むと、ポンドは円に対しても上昇した(④)。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

## 下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

## 今週の見通し

先週のポンド/円相場は123.30～128.83円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.7%の下落(ポンド安・円高)となった。週前半は主要国株が大幅下落となったことを背景にリスク回避志向が高まり、ポンド/円は大きく値を下げた。週後半に入ると株安ムードが一服したが、ポンド/円の戻りは鈍かった。

今週のポンド/円も先週と同様、株価睨みの展開となりそうだ。今週、米国では15日から18日にかけて主要経済指標が連日発表される他、要人発言の機会も多い。また、英国でも16日に7月消費者物価指数、17日にイングランド銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)議事録、18日に7月小売売上高指数と、やはり経済イベントが続く。さらに、欧州では、ユーロ圏とドイツの第2四半期国内総生産(GDP)・速報値やメルケル独首相とサルコジ仏大統領の会談が16日に予定されており、こちらも注目されている。こうした経済イベントの内容を背景に主要国株価が上下どちらに動くかがポンド/円の方角を決定づけるだろう。先週、株が大幅安となるも週後半のその流れが一服した、という流れになったことを考えると、今週は「値ごろ感からの株買いや、ことさら好材料を手掛かりにして主要国株価は上昇→ポンド/円も上昇」というシナリオの方が、ポンドが一段安となるシナリオよりもあり得るとみる。

この他、引き続きドル/円が76円台前半まで値を下げる場面では円売り介入観測が広がり、かなり不安定な動きを見せるだろう。ドル/円が政府・日銀による円売り介入やレートチェック、介入観測を絡めたまとまった円売り・ドル買いなどによって急騰する場合、ポンド/円も連れて急激に上昇するとみられる。ドル/円の値動きにも注意が必要だろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:122.50～129.00円)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/USD

## ポンド/ドル 8/8~12の主な推移



<p><b>8/8</b> Monday</p>	<p>前週末5日のNY市場終了後に格付け会社S&amp;Pが米国の格付けを最上級の「AAA」から「AA+」に引き下げた事を受けて、早朝からドル・ポンド高が進行。その後はアジアの株安を受けて上げ幅を圧縮したが、夕方に欧州中銀(ECB)がイタリア国債を購入したとの噂が広がり、ユーロ/ドルが上昇したことに連れてポンド/ドルは1.6470ドルまで上昇した(①)。もっとも、その後は欧米株の大幅安を受けてリスク回避の動きが強まり、ポンド/ドルは1.6295ドルまで値を下げた。</p>
<p><b>8/9</b> Tuesday</p>	<p>日経平均が下げる中、ポンド/ドルは1.6266ドルまで下落。午後に入り米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が緊急会見を行うとの噂が広がり、アジア株が下げ幅を圧縮するとポンド/ドルは反発したが、欧州株が下げるとポンド/ドルは反落。米国市場に入ると1.6174ドルまで値を下げた(②)。27時15分頃、米連邦公開市場委員会(FOMC)が「異例の低金利を少なくとも2013年まで維持」「追加的な緩和策を適切に実施する用意がある」などとする声明を発表すると、米国の超低金利政策長期化観測からドルが急落。NYダウ平均株価の上昇も相まって、ポンド/ドルは大幅反発となった。なお17時30分発表の英6月鉱工業生産が前月比±0.0%と予想(+0.4%)を下回ったことから発表直後はポンド安に振れたが反応は一時的だった。</p>
<p><b>8/10</b> Wednesday</p>	<p>アジア株の伸び悩みや北朝鮮による韓国領へ向けた砲撃が報じられたことでNYダウ平均先物が下落したこと、18時30分発表のイングランド銀行(BOE)のインフレレポートにおいて「2年後の消費者物価指数(CPI)は約1.8%になる」「CPIは2011年に5%に達するが、2012年、2013年に緩和する」「5月時点よりも英経済成長見通しは弱い」などとインフレと経済成長の見通しを下方修正したこと等を背景に、ポンド/ドルは下落。さらに米国市場でフランス格下げの噂などによりユーロ/ドルが大幅に下げると、ポンド/ドルは連れて一段安となった(③)。</p>
<p><b>8/11</b> Thursday</p>	<p>米国市場に入り、発表された米新規失業保険申請件数が39.5万件と予想(40.5万件)より良好な結果だったことを受けてNYダウ平均株価が上昇した事を受け、ポンド/ドルは上昇。さらに、スイス中銀(SNB)がスイスフラン高対策としてスイスフランとユーロの一時的なペッグ(連動)制の導入を検討しているとの憶測などからポンド/スイスでスイスフラン安・ポンド高が進むと、ポンド/ドルでもポンド高の進行に拍車がかかった(④)。</p>
<p><b>8/12</b> Friday</p>	<p>欧州市場序盤にユーロ/ドルが下げると、ポンド/ドルも連れて下落。しかし、欧州中銀(ECB)がスペインとイタリアの国債を購入しているとの観測や、スイス中銀によるスイスフラン高対策を警戒してポンド/スイスでポンド高が進んだ影響を受け、ポンド/ドルは反発した(⑤)。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。



# GBP/USD

## 上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

## 下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

## 今週の見通し

先週のポンド/ドル相場は1.6110～1.6470ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.7%の下落(ポンド安・ドル高)となった。主要国株が大きく値を下げる中、週前半は下落。後半は株安が一服したことで反発したが、全値戻しには及ばなかった。

今週の英国および米国では、先週ほどではないものの重要な経済イベントが複数予定されている。米国では15日に8月ニューヨーク連銀製造業景気指数、16日に7月住宅着工件数及び建設許可件数、7月鉱工業生産、17日に7月生産者物価指数、18日に7月消費者物価指数や新規失業保険申請件数、8月フィラデルフィア連銀景況指数などの主要経済指標や、要人発言の機会も多い。一方、英国では16日に7月消費者物価指数、17日にイングランド銀行(BOE)議事録や7月雇用統計、18日に7月小売売上高指数の発表が予定されている。ただ、為替相場が全般的に株価睨みの展開になっていることを考慮すると、ポンド/ドル相場は今週も各種経済イベントの内容を直接的に相場の材料とした動きよりは、これらを受けての主要国株価の動きによって方向感が決定づけられる可能性がある。

また、スイス政府および中銀によるスイスフラン高対策についての観測報道を受けたスイスフランの動きや、欧州の重債務国に対する信用不安とECBによる対応などを背景とするユーロの動きが、引き続きポンド相場の波乱要因となってくるとみられる。関連報道には注目したい。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6050～1.6470ドル)

## 経済指標カレンダー (8/15~17)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/15 (月)	08:50	○	(日) 第2四半期GDP・一次速報 [前期比]	-0.9%	-0.6%
		○	(日) 第2四半期GDP・一次速報 [前期比年率]	-3.5%	-2.5%
	21:30	○	(米) 8月ニューヨーク連銀製造業景気指数	-3.76	0.5
	22:00	○	(米) 6月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+236億USD	—
	22:00	○	(米) 6月対米証券投資 [ネットフロー合計]	-675億USD	—
	23:00	○	(米) 8月NAHB住宅市場指数	15	15
8/16 (火)	10:30		(豪) RBA議事録	—	—
	15:00	○	(独) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+1.5%	+0.5%
		○	(独) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+4.9%	+2.9%
	17:30	◎	(英) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.1%	-0.2%
		◎	(英) 7月消費者物価指数 [前年比]	+4.2%	+4.4%
	17:30		(英) 7月小売物価指数 [前月比]	±0.0%	-0.2%
	18:00	○	(ユーロ圏) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.8%	+0.3%
		○	(ユーロ圏) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+2.5%	+1.8%
	18:00		(ユーロ圏) 6月貿易収支	±0.0億EUR	—
	21:30	◎	(米) 7月住宅着工件数	62.9万件	60.8万件
	21:30	○	(米) 7月建設許可件数	61.7万件	60.6万件
	21:30		(米) 7月輸入物価指数 [前月比]	-0.5%	-0.1%
	22:15	○	(米) 7月鉱工業生産 [前月比]	+0.2%	+0.5%
	22:15		(米) 7月設備稼働率	76.7%	76.9%
8/17 (水)	07:45		(NZ) 第2四半期生産者物価指数 [前期比]	+1.7%	+0.8%
	17:00		(ユーロ圏) 6月経常収支	-52億EUR	—
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	17:30	◎	(英) 7月失業率	4.7%	4.7%
	17:30	◎	(英) 7月失業保険申請件数	+2.45万件	+2.00万件
	18:00		(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.5%	+2.5%
	20:00		(南ア) 6月実質小売売上高 [前年比]	±0.0%	—
	21:30	○	(米) 7月生産者物価指数 [前月比]	-0.4%	+0.1%
		○	(米) 7月生産者物価指数 [コア:前年比]	+0.3%	+0.2%
		○	(米) 7月生産者物価指数 [前年比]	+7.0%	+7.0%
○		(米) 7月生産者物価指数 [コア:前月比]	+2.4%	+2.3%	

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (8/18~19)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/18 (木)	08:50	○	(日) 7月通関ベース貿易収支	+686億円	+693億円
	14:00		(日) 6月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	108.6	——
			(日) 6月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	103.2	——
	17:30	○	(英) 7月小売売上高指数 [前月比]	+0.8%	+0.2%
		○	(英) 7月小売売上高指数 [前年比]	+0.2%	——
	18:00		(ユーロ圏) 6月建設支出 [前月比]	-1.1%	——
	21:30	◎	(米) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.2%	+0.2%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.3%	+0.2%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [前年比]	+3.6%	+3.3%
		◎	(米) 7月消費者物価指数 [コア:前年比]	+0.6%	+1.6%
	21:30	◎	(米) 8/12までの週の新規失業保険申請件数	39.5万件	——
	21:30		(加) 7月景気先行指数 [前月比]	+0.2%	——
	21:30		(加) 6月卸売売上高 [前月比]	+1.9%	——
	23:00	○	(米) 8月フィラデルフィア連銀景況指数	3.2	4.0
	23:00	○	(米) 7月中古住宅販売件数	477万件	490万件
	23:00		(米) 7月中古住宅販売件数 [前月比]	-0.8%	+2.7%
	23:00		(米) 7月景気先行指数 [前月比]	+0.3%	+0.2%
8/19 (金)	15:00		(独) 7月生産者物価指数 [前年比]	+5.6%	+5.3%
	20:00		(加) 7月消費者物価指数 [前月比]	-0.7%	+0.2%
			(加) 7月消費者物価指数 [前年比]	+3.1%	+2.8%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com